

平成27年度 学校自己評価表 (計画段階・実施段階)

福岡県立鞍手竜徳高等学校長 印

学校運営計画(4月)				評価(3月)				
学校運営方針		教職員が丸となり組織的に生徒に基本的な生活習慣と学習習慣を身に付けさせ、生徒一人ひとりの進路実現を図るとともに、自らの志に向かって意欲的に学び、自律心と思いやりの心を持つ生徒の育成を目指す。						
昨年度の成果と課題		年度重点目標		具体的目標				
<p>1 学校運営方針に基づき職員の協働の結果、学校全体が落ち着き、遅刻・欠席が大幅に減少し、転退学者数、問題行動も大幅に減少した。今後も積極的な生徒指導により、基本的な生活習慣の定着や心の教育の充実を図っていく。</p> <p>2 授業改善に向けた取り組みを行うことにより、幅広い学力層の生徒への指導力向上を図ることができた。今後も研究授業やICTを使った授業に取り組み、学力充実を目指す。</p> <p>3 総合的な学習の時間、特別活動とおし、生徒に自尊感情の高揚が見られる。今後、学校行事及びボランティア活動、部活動等の成果を積極的に地域社会に発信することにより、開かれた学校づくりを推進し、保護者や地域から信頼される学校を目指す。</p> <p>4 総合学科高校として良き学校文化が生まれつつある。生徒、保護者、教職員、地域、同窓会が心を一つに、さらなる飛躍を目指す。</p> <p>5 地域の中学校卒業生数は急激に減少しているが、地元中学校との信頼関係は強固になりつつある。地元企業との協力関係も活用し、社会に貢献できる人材の育成に努める。</p>	1 授業の充実に努めるとともに、生徒に自学自習力を身に付けさせ、確かな学力を育成する。	ア 授業規律の徹底を図り、わかる授業、興味・関心を持つ授業を展開することにより基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。 イ 教科・学年等が連携し、組織的に成績不振生徒に対する学習支援の徹底を図る。 ウ 学習指導要領のねらいを実現するため、各教科において単元または題材ごとの目標を設定し、評価方法や指導方法の改善を図る。	2 総合学科の各系列の特色を生かした資格取得の充実を図る。	ア 各系列の学習内容の特色を生かした実習や課題研究の充実に努め、社会で通用する資格取得のための指導を積極的に進める。	A			
	3 特別な支援を要する生徒の教育的ニーズに対応する。	ア 特別支援教育に関して、全職員の間で共通認識を図る。 イ 特別支援教育に関する研修の充実を図る。	4 学校教育活動全体を通して、生徒に規律を守らせ、節度ある生活態度を身に付けさせる。	ア きめ細かな生徒指導により、基本的な生活習慣の徹底を図るとともに、全職員の共通理解による生徒指導体制を確立し、規範意識の高揚を図る。				
	5 心身を鍛え、何事にも粘り強く果敢に挑戦する生徒を育成する。	ア 生徒会活動・奉仕活動や部活動を充実させ、集団への帰属意識を育て、社会性やコミュニケーション能力の基礎を培い、自尊感情の育成を図る。	6 生徒の能力と適性を最大限に生かすような進路の実現に努める。	ア 系統的なキャリア教育の充実を通して、生徒の進路意識を高めるとともに、生徒が主体的に進路実現を図れるよう支援を行う。				
	7 生徒や保護者が、誇りや充実感を持つことができる教育を推進する。	ア 生徒が主体的に関わる特別活動や部活動とおして、生徒の本校への所属感や達成感を高める工夫を行う。	8 学校行事や広報活動により、地域から信頼される学校づくりを行う。	ア 地域と連携した活動の充実に努めるとともに、ホームページをはじめとする広報活動を積極的に進め、地域に信頼される学校づくりを目指す。また、関係中学校、行政、企業等との連携を図り、地域に開かれた学校づくりを推進する。 イ 学校行事・部活動・ボランティア活動とおして、生徒、職員、保護者、同窓会の連携を深め、鞍手竜徳高校としてのスクールアイデンティティを高める。				
	9 教育相談の環境を充実させ、明るい学校づくりに努め、いじめを撲滅する。	ア 月1回、「いじめに特化したアンケート(無記名または記名)」または「学校生活アンケート」を実施し、いじめの早期発見に努める。 イ いじめ問題対策委員会や教育相談事業を活性化させ、職員間における情報の共有と共通理解を図り、不登校や中途退学の防止に努める。	めざす学校像			めざす生徒像		
	1 生徒一人ひとりが確かな志を持ち、夢や希望の実現に向かって挑戦する学校	1 基礎基本を習得し、それを活用する生徒	2 心身ともに健康で、思いやりや感謝の言動がとれる生徒	3 自他の生命を大切にし、決して「いじめ」を許さない生徒		4 高い規範意識を持ち、規則を遵守する生徒	5 最後まで粘り強く挑戦する生徒	
	2 人間としての基礎基本を身に付けさせ、鞍手竜徳生としての自信と誇りを持つ生徒を育成する学校							
	3 豊かな心と健やかな体を持ち、生涯にわたって逞しく生きる人間を育成する学校							
	評価項目	具体的目標		具体的方策		評価(3月)	次年度の主な課題	
	教務課	1 積極的な学力向上の推進	1 日々の学習の取りこぼしがないように放課後の学習指導を充実させる。 2 毎日の宿題、長期休業中の課題等を各科目で出してもらい、学習習慣の確立を図る。 3 1年間かけて観点別評価の方向性を示し、来年度からの導入を目指す。 4 教職員の教科指導力向上のため、生徒対象の授業アンケートを年2回実施する。	A B B A		B A A	A	この数年で生徒指導体制が確立し、この2年間で欠席・遅刻者数も激減した。今後は生徒の基礎学力定着のため、週1回の振り返り(学び直し)学習やテストを導入する。また、教員の意識変革を促す意味において、観点別評価の本格的な導入が急務であると考えている。新入試制度への対応も視野に入れながら、地域から指導方法を評価していただけるように改革を進める。
2 中途転・退学者減少		1 補講(追試)体制の確立により、学習習慣を身に付けさせ、進級・卒業につなげる。 2 生徒部、学年と連携を取りながら、遅刻を昨年度の半分にして基本的な生活習慣の確立を図る。	A A					
3 円滑な分掌業務の遂行		1 定期的に部会議を開き、課同士の連携を図る。 2 情報管理課と協力して、教務支援システムの円滑な運用を図る。	A A					
学務部 庶務課	1 業務の分担化	1 PTA関係と学校運営関係との効率的な業務分担を図る。	A	A	A	○仕事分担の明確化と早目の取り組み ○PTA役員の勧誘、保護者との協力体制強化 ○PTA活動の見直し、充実等(研修旅行、奉仕活動等) ○同窓会組織確立のための整備		
	2 PTA活動の活性化	1 各委員会の自主的活動を重視した委員会日程や役員日程を調整し、定める。 2 年間の主となる中核的なPTA活動の充実に努め、保護者の参加者を増やし、学校の教育活動に関心を持ってもらい、保護者の協力体制の組織化を図る。 3 各委員会活動については、担当教員が委員長との連絡を密にし、活性化に努める。	A B A					
	3 同窓会活動の活性化	1 同窓会組織確立のための整備に努める。	B					
研修図書課	1 職員研修の充実	1 授業力の向上を図るため、研究授業や研修を活性化させる。 2 本校の課題に則した研修を企画し、実施する。 3 小グループ研修を行い、意見を交換しやすい集団の醸成を図る。	A A A	A	A	研究授業を教科グループ別の実施する形をとり、多くの研究授業が行われた。来年度も授業研究を活性化し、学校全体の授業力向上を図ることが課題である。また新しい授業観や積極的な生徒指導を浸透させるため、小グループによる研修も必要である。		
	2 中学生への積極的アプローチ	1 中学生体験入学の充実(日曜実施)を図る。 2 進路相談事業への参加と内容の充実を図る。	A B					
	3 読書に親しむ姿勢の育成	1 図書館の整備や広報など本への親しみが増すような啓発活動を行う。	A					
情報管理課	1 広報活動の充実	1 ホームページの更新を適宜行い充実を図る。 2 部活動や学校行事などの写真を活用し、保護者や中学生など地域の方々へ本校に対する理解を図る。	A A	A	A	広報委員会と連携し、ホームページの更新を充実できたので、次年度以降も継続していく。また、ネットワークの整備やICT機器などが充実してきたため、管理を徹底し、運用しやすい環境を整備することが必要である。		
	2 校務用パソコンによる事務処理環境の改善	1 校務用パソコンの適正な管理および運用に努める。 2 校内LANの適正な管理および運用に努める。	A B					
	3 ICT機器活用の推進	1 授業用パソコン・情報処理室等のICT機器の管理および活用を推進する。 2 ICT機器の活用について、教員のサポートに努める。	B A					

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題		
生徒部 生徒指導課	1 基本的な生活習慣及び授業規律の確立と問題行動の減少	1 朝のSHRの遅刻・欠席、授業中における意欲のない生徒に対し、生徒部が中心となり指導の強化を図る。 2 「いじめ」を許さない、努力する者が守られる学校を目指し、授業規律等を含め竜徳生としての自覚や誇りを養う。 3 教職員間(教科、担任、学年)との情報交換を密にし、きめ細かな生徒指導を行う。	A	A	A ○遅刻・欠席者数は半減できたが、その指導法等の検討を行い、一層の充実を図る。 ○成績不振者に対するアルバイト許可については、継続して指導法の確立を図る。 ○各部活動は中学校や外部団体と連携を図り、入学前の取組の強化を図る。		
	2 交通安全指導の強化による規範意識の向上	1 交通安全指導により、ルール的重要性や集団の一員としての自覚、生徒一人ひとりの規範意識を高める。	B	B			
	3 部活動加入率の増加による学校活性化の推進	1 部活動紹介や各部の加入活動を充実し、加入率50%以上を目指す。 2 部活動集会を開き、部活動生の意識向上を図る。	A	A			
生徒部 保健環境課	1 健康・安全・環境管理の推進	1 教職員、全校生徒対象の健康・安全・環境管理の発信に努める。 2 保健室利用に関する教務支援システムの活用と情報提供を図る。	A	A	A ○保健日より作成をはじめ、行事等で保健委員が積極的に仕事をするようになったので、より活発に活動をさせていきたい。 ○生徒が安全に学校生活送れるように、安全・環境管理に注意を払っていきたい。 ○救急救命の職員研修に、本年度、アナフィラキシーの対応も含めての講習会を実施したが、次年度も継続していきたい。		
	2 環境美化意識の推進	1 月末大掃除や15分の清掃活動を、全校生徒で取り組み校内美化に努める。 2 掃除用具の点検と整備に努める。 3 ゴミの分別の周知徹底及びゴミの1割減量に努める。	A	A			
	3 生徒会活動としての保健・美化委員会の活性化	1 保健・美化委員会の活性化を図る。(生徒会活動としての取り組みを前・後期に一度は取り入れる。) 2 保健委員会による健康増進や病気の予防に対する発信に努める。(保健便りの発行) 3 美化委員会による校内のゴミゼロ運動及び校内美化意識の向上を図る。	A	A			
進路部 進路指導課	1 11期生の進路実現	1 クラス担任との連携を密にし、生徒の進路に関する情報を共有する。 2 生徒の実態や社会情勢に応じて、適時性に配慮し情報を発信する。 3 面接指導や企業訪問を学校挙げて実施することができるように計画する。	B	B	A ○外部講師を招いての進路セミナーは生徒が緊張感をもって臨むことができているので来年度も実施する。ただし、事前指導を今以上に工夫する必要がある。 ○全職員で実施した面接指導や企業訪問は生徒の進路意識の向上にもつながっているため、来年度も実施していく。面接指導については、応募先企業のパンフレット等も生徒に持たせるようにする。 ○様々な情報を進路から提供しているが、それらの情報が全職員に伝わっていないケースがあるので、情報提供の方法について検討する。		
	2 各学年の進路指導の充実	1 1年次生の全員課外は継続し、課外の欠席者等の指導は学年と協議して、学年にお願いする。 2 希望者課外は資格取得課外も含め年間を通したプランを提示する。3年次生は夏季休業中の課外から就職と進学に分ける。 3 各学年の進路行事の定着を図る。 4 進路の手引きを7月までに発刊し、進路に関する情報を提供する。	A	A			
	3 進路関連行事の充実	1 キャリア学習課と連携し進路ガイダンスの更なる充実を目指す。 2 校内外模擬試験を、各学年の実情に合わせて効果的な時期・内容で実施する。 3 卒業生や3年次生の体験談の発表を行うことにより、1年次・2年次の生徒の意識の向上を図る。 4 外部団体との連携は継続し面接、講演等を含めて新たな展開を模索する。	B	A			
	進路部 キャリア学習課	1 「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」の円滑な実施と運営	1 学習内容を明確にし、会議等を適宜実施することで教員間での共通理解を図る。 2 「産業社会と人間」において、キャリア教育の柱に沿った学習を検討・実施し、進路選択に向けての情報提供をする。 3 2・3年次の「総合的な学習の時間」の時間数変更に伴う年間計画の見直しをする。	B		B	A ○科目選択については、次年度も学務部・各教科と連携しミスのない科目選択を実施するとともに、系列の授業見直し並びに体験授業は継続して行う。また、科目選択における人数調整の方法を検討し、生徒の希望が叶うよう努める。 ○産社・総学の年間行事の見直しを行い、キャリア教育の充実を図る。 ○学校の特色を生かした総合学科発表会を目指し、専門性の高い発表会を実施する。 ○職員間の共通理解を図るため、適宜、会議を実施し、情報発信を怠らない。
		2 科目選択に向けたカリキュラムガイダンスの充実	1 教務課と連携し、カリキュラム作成のための準備と科目群の作成、時間割の見直しをする。 2 科目選択を充実させるための、カリキュラムガイダンスの学習内容を検討し、ミスのない科目選択を実施する。 3 学年ごとに職員に対する科目選択における事前ガイダンスを実施する。	A		A	
		3 鞍手竜徳高校の目指す教育を盛り込んだ、地域への情報発信の充実	1 鞍手竜徳ニュース(年3回)の充実を図り、地域や中学校への広報に生かす。 2 「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」の学習内容を踏まえ、各系列の特色を生かした総合学科発表会を実施する。 3 ホームページ等を活用し、学校行事や学習内容の発信を充実させる。	A		A	
人権・同和教育部	1 教職員研修の充実	1 教職員全員が、校外の研修会(学習会)に少なくとも2回は参加する体制を作る。 2 校内研修について、研修図書課との連携を図り外部講師を招聘する。(2回) 3 拡大学年会議で生徒情報の交換を徹底する。(複数回)	A	A	A ○職員研修の充実 ○分掌内の整備及び組織体制の改善 ○生徒支援に係ること ・入学時の相談事業等 ・就学支援金・給付金制度(全学年)の対応 ・特別支援教育の充実等 ○「振り返りシート」(アンケート)の継続的な実施 ○全教科にわたる人権教育の推進 ○主権者教育の推進		
	2 人権・同和教育授業、ホームルーム活動の充実	1 ホームルーム活動の学習内容の充実を図る。年4回、各学年で指導案を作成する。 2 ホームルーム活動の事前学習会および事後の反省会の充実を図る。 3 人権教育学習教材資料「あおぞら」の活用を進める。	A	A			
	3 自主活動支援および修学支援の推進	1 人権研究会(部落研・朝文研)の活動を支援する。 2 学力支援の取組み等、教務課、学年との連携を図り転退学者数を減らす。 3 入学時からの継続的な相談事業を充実させる。(合格者説明会、物品販売日、入学式等々)	C	B			
第1年次	1 学校生活を中心とした基本的な生活習慣及び生活基盤の定着と確立	1 保護者と協力し、毎日の授業にきちんと出席することの大切さを教える。 2 集団生活におけるルールを身に付けさせ、時間厳守の意識を定着させる。 3 「挨拶・返事」が大きな声できるようにさせる。	A	A	A ○学年集会やHRにおいて、集団生活におけるルールや学校生活でのリズムの定着を徹底して行う。 ○授業や課外において環境を整え、学習意欲の向上や基礎学力の定着に努める。 ○「産業社会と人間」において自分の将来について考えさせ目標・目的を明確にさせる。 ○進路実現に向け「資格取得」や学習への向上心を持たせる。		
	2 朝課外の定着化による基礎学力の向上及び学習習慣の確立	1 毎日の授業に加え、課外授業を行うことにより基礎学力のさらなる向上を図っていく。 2 授業に取り組む姿勢、遅刻など時間厳守の徹底を図る。 3 各教科に協力を仰ぎ、週課題などを実施し、学習の習慣化を図る。	B	B			
	3 進路目標確立及び学年リーダーの育成	1 「産業社会と人間」の時間を活用し、自己の将来を考えさせる。 2 卒業生などの体験談等を活用し、進路選択の一助とする。 3 将来、生徒会の一員として活躍できる生徒を育成する。	A	A			
第2年次	1 竜徳生としての自覚と責任ある行動の確立	1 挨拶、返事、正しい言葉遣いを習慣化させ、規律を守る態度を育む。 2 集団の一員として取るべき言動を重視した学校生活を送らせる。 3 社会人への第一歩として、ルールを守ることの大切さを徹底して指導する。	B	B	A ○進路部との連携を密にし、早期の面接指導や筆記試験対応など進路実現に向けた取組を行う。また、挨拶や言葉遣い、人への配慮等を身につける指導を徹底するとともにコミュニケーション能力の育成に努め、社会で通用する人材育成を図る。 ○集団をまとめる信頼されるリーダーを育て、生徒会や他学年と協力しながら学校行事の成功を目指す。		
	2 基礎学力の向上及び学習意欲の向上	1 授業態度の確立を図り、集中して授業に参加できる態度を育む。 2 クラスの壁を越え、学年全体で生徒の学習指導に当たる。 3 放課後テストや試験前勉強等を実施し、学習習慣の確立を図る。	B	A			
	3 「総合的な学習の時間」の充実と進路確立	1 「総学」のインターンシップを通して、体験的活動から将来の目標を見つけさせる。 2 進路部と連携し、早い時期から進路指導に取り組む。 3 進路に関する様々な情報を与え、生徒一人一人の将来について、職員で真剣に考え、指導する。	A	A			
第3年次	1 進路希望の実現	1 進路模試の結果や生徒一人一人の適性、学力を把握した指導を行い、進路先ミスマッチを防ぐ。 2 進路指導部と連携し、課外授業や模擬試験、面接対策や作文・論文指導を計画的に行う。 3 課外授業の受講や資格取得等により、積極的な学方向上、能力開発を行わせる。	A	A	○進路指導部と密に連携を取り年次毎の進路目標を明確にし、卒業年次までに、個々の進路意識を高め、それに伴う学力の向上		

		4 進路における各情報や資料を生徒及び保護者に提供し、個人面談を充実させる。	A		A を目指す。 ○主体的な社会生活を念頭に置き、規範意識の涵養と、基本的な生活習慣の確立について、より一層家庭との連携・協力、理解を得る努力が必要である。 ○帰属意識を高める行事運営等に工夫を重ね、主幹となる体育祭、竜徳祭、総合学科発表会において協調性やまとめる力、プレゼンテーション能力の育成を更に目指す。
2 信頼たるべき社会人に必要な資質の向上	1	社会人になるにあたり、礼儀、言葉遣いや挨拶の大切さを理解させる。	B	B	
	2	家庭との連携を密にし、時間厳守や規則正しい生活を送らせ遅刻者を減らし、年間皆勤者18名を目指す。	A		
	3	生徒部と連携し、集団生活における規範意識を高める。	B		
	4	責任ある言動がとれ、信頼に足る社会人像を描かせる。	A		
3 集団生活におけるリーダーシップと協調性の育成	1	学校行事の場で、連携や協調性を尊ばせ、集団の中で自己の役割を自覚し、果たさせる。	A	A	
	2	部活動において、最高学年としてリーダーシップを発揮し、後輩に良き伝統を引き継がせる。	A		
	3	総合学科発表会において、まとめる力及びプレゼンテーション能力を育成する。	A		
	4	学年の連携を密にし、集団生活における協調性を養わせる。	B		